

和光

発行 〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町1700番地
国立療養所 奄美和光園
電話(0997)52-6311 FAX(0997)53-6230

令和7年5月1日
(2025)

第137号



■表紙	1	■消防訓練(夜間想定)	14
■患者さんの権利	2	■令和6年度 医療安全実践報告会を開催して	15
■お別れの言葉	3	■看護研究発表会	16
■医療功労賞を受賞しました	3~4	■フットケアセミナーに行ってきました	17
■退職者・異動者挨拶	5~7	■日本フットケア・足病医学会九州・沖縄地方会学術集會に参加して	18
■新人紹介	8~9	■NST News Letter	19
■花見会	10~11	■メディカルアロマセラピー始めました	20
■令和6年度 県内巡り	12	■診療統計	21
■まほろば大和ウォーキング大会	13	■人事異動・和光園日誌・編集後記	22

基本理念

私たちは、入所者一人ひとりの生命の尊厳と人権を守り、豊かな自然環境につつまれた穏やかで心豊かな療養生活と、安全で安心できる医療を提供します。



かがんばなトンネル夕日(龍の目)

基本方針

1. 入所者の終の棲家として心穏やかな暮らしを支えることを基本とします
2. 入所者自治会とよく話し合い 入所者本位の運営に努めます
3. 入所者一人ひとりの日々の変化にきめ細かく対応いたします
4. ハンセン病による後遺症や合併症の対策をしっかりと行います
5. 入所者が高齢化していることを念頭に置き 健康保持の活動や生活を支える医療さらには感染予防・認知症対策に重点を置きます
6. 地域医療とも連携し 適切で標準的な医療の提供に努めます
7. ハンセン病に対する正しい知識を普及させるため 啓発活動に努めます
8. 開かれた療養所となることを目的に地域社会との交流促進に努めます
9. 入所者の健康と安全な生活に貢献できるようすべての職員の質の向上に努めます

患者さんの権利

★人格を尊重した医療を受ける権利

誰でも、どんな病気でも、安全で良質な医療を平等に受ける権利と、個人の人格や価値観が尊重され、医療提供者との相互協力関係のもとで医療を受ける権利があります。

★医療に関する十分な説明を受ける権利

検査、治療等について、あるいは他の治療方法について、納得されるまで十分な説明を受ける権利があります。

★個人情報保護の権利

診療の過程で得られた個人情報やプライバシーが守られ、個人の尊厳が保たれる権利があります。

★診療情報の提供を受ける権利

ご自身の診療録の開示を請求する権利があります。

★検査や治療等の自己決定権の権利

検査、治療法などの選択、あるいは拒否をする権利があります。
また、セカンドオピニオンを受ける権利があります。

患者の皆様へ

- ご自分の健康に関する事を詳しく正確にお話し下さい。
- あらゆる危険を回避するために職員との連携にご協力下さい。
- よりよい医療・療養・生活環境を維持するために入院の規則をお守り下さい。



お別れの言葉

年が明け緋寒桜を愛でた時期が過ぎ暖春の季節が巡ってきました。幾度となく春を迎えてきましたが今年は別れ路の春となりました。初めはどうなることかと思っていた和光園での仕事も全て終わり、今はすがすがしい思いとなっています。

ハンセン病療養所での仕事を始めてから30年余りが過ぎました。和光園で過ごした年数も15年になりました。この間、敬愛園との副園長併任・和光園園長・同特命副園長と職名・職責は変わりましたが療養所勤務の職員としての役割は変わらず、入所者の皆さんと親しく過ごしてきました。

奄美和光園の存在自体は子供の頃から知っていたのですが、実際に勤務を始めてみてその役割の大きさと先輩のご尽力を引き継ぐ責務の大きさに改めて気を引き締めたことを思い出します。幸いにして大過なく任務を終えることができ内心ホッとしています。この間療養所創設以来の70周年・80周年という節目を入所者の皆様と迎えることができ、その度に療養所の歴史に思いを馳せてきました。病を得たがため

に数奇な運命を辿らざるを得なかった人々も齢を重ね、皆さん高齢となっていきました。この人達が普通に暮らせるよう毎日の生活を支え、地域との交流や人々との集いの場を工夫することに心血を注いだつもりです。幸いなことに園内はもとより地域の方々にも理解が深まり人生の晩年を普通に過ごす様子を見ることができ安堵しています。和光園での時間は、私の人生における貴重な時間として刻み込まれています。

ハンセン病療養所での勤務を終えるに当たって感じることは、二度とこのような間違いを繰り返してはならない、奄美が差別や偏見のない自由に生きられる地域であって欲しいということです。入所者の皆さんが地域の一員として平穩にそして末永くお元気で暮らしていくことを祈っています。また、一緒に協力して頂いた園の職員・地域の皆様に感謝申し上げます。

特命副園長 加納 達雄

医療功労賞を受賞しました

この度読売新聞社主催の顕彰事業である医療功労賞地方・中央表彰を受賞しました。関係者の皆様方には慎んでご報告すると共にこれまでのご指導、ご鞭撻に感謝申し上げます。過日、福岡での地方表彰式その後東京での中央表彰式に出席してきました。東京では表彰状とメダルを授与されたあと受賞者一同皇居へ参内し特別参観のあと、御所で天皇、皇后両陛下へ拝謁するというこの上ない栄誉に浴しました。受賞の知らせを受けたとき、正直な印象は、人生何があるか分からないものだと感じました。受賞の対象がハンセン病療養所で働く

人間に当たったのを嬉しく思うと共に、私個人としてはハンセン病療養所に長く勤務し入所者の方々への仕事が評価されたものと考え非常に光榮に思っているところです。

私の役割は、入所者の人達に普通の生活を送ってもらうにはどうすればいいかということを探しその実現に努力することでした。元々の病は既に治っており、この病による後遺症対策が中心となっていました。この後遺症を持ちながらもどうすれば普通の暮らしができるのかを考える毎日でした。医師としての役割は良質な医療の提

供ですが、自分一人では十分ではなく、大島郡医師会特に奄美市内の先生方には大変お世話になりました。向井先生、先代の郡山先生、徳田先生それから県立病院の院長をされていた眞田先生、副院長だった満先生（現医師会病院院長）のバックアップは大きいものでありました。

一番大事な仕事は、入所者の方々の日常生活のお世話でした。いわゆる医療一介護の連携でした。これなどは世間で言われている地域医療連携の走りとして療養所で取り組むことができました。それからもう一つ重要な仕事として啓発活動がありました。これはハンセン病を題材とする人権活動で、入所者から聞いた言葉に基づいて随分と偏見・差別について考えさせられました。かつて苦難の日々を送った入所者の方々の存在がなければ仕事などできなかつたと思っています。皆様のご苦勞と療養所作りに懸けたご努力またここまで療養所を

作り上げてきた先人に対し敬意を表すると共に心から感謝申し上げます。

これまで多くの方々から教えを受けてきました。高校や大学での恩師、臨床の手ほどきをして頂いた先生方、ハンセン病療養所へ導いてくれた先生方、そしてその中で療養所の歴史と入所者の考えを教えてくれた入所者一人ひとりの皆様並びに自治会役員の皆様、さらには仕事を十分にできる家庭環境を維持してくれた私の伴侶に尊敬の念と心よりの感謝を申し上げます。最後に、ハンセン病問題が日本の近代化における大きな負の遺産であることを念頭に置き、私自身も今後とも人権問題に心を配りより良い社会作りに向けて微力を注ぎたいと意を強くしています。

奄美和光園 名誉園長 加納 達雄



退職者・異動者挨拶

退任のご挨拶

令和7年3月31日をもって退任することとなりました。令和4年4月より3年間、奄美和光園の皆さまには大変お世話になりました。この度、定年退職となり、お世話になった皆さまに心から感謝いたします。

奄美での3年を振り返ると、嬉しかったことや落ち込んだことなど、多くを思い出す機会となりました。いつも多くの皆さ

まに助けられ、励まされながら今日を迎えることができていることを痛感いたしております。これからも、人とのつながりを大切に、そして感謝の気持ちを忘れずに邁進していきたいと思っております。ありがとうございました。

総看護師長 中寫 洋子

お世話になりました

この3月31日で定年退職を迎えました。国立施設に33年勤務し、12施設を巡って当園が公務員生活のゴールでした。13年間続いた単身赴任生活も終了で、ようやく家へ帰ることができます。

和光園には令和4年4月に赴任し、3年間の勤務となりました。先代事務長から「園のために何ができるか、各人考えてくれ」と命題をもらい、考えました。園のために何ができるか？結局のところ自分の担当業務しかありません。私の担当業務は施設管理（いわゆる工事）でしたので、園内施設のいろいろなニーズに耳を傾け、立案

と予算獲得に注力しました。小さな工事ばかりですが、この3年間に十数件の工事を完了しました。

私自身の職歴はここで終わりますが、手がけた工事の成果は園と共に残ります。いつか園を再訪してこれらの「成果」と再会できるなら大きな喜びです。

3年間の短い間でしたが、お世話になりました。ありがとうございました。

事務長補佐 岩橋 竜一

奄美和光園退任のご挨拶

この度、異動により奄美和光園を離れることとなりました、放射線科の高島憲章です。令和3年4月に着任して以来、4年間、皆様には大変お世話になりました。奄美の豊かな自然と温かい人々に囲まれ、充実した日々を過ごすことができました。

特に、入所者の皆様との交流は、私にとってかけがえのない経験となりました。皆様からいただいた笑顔は、私の心の支えです。また、職員の皆様との協力は、困難な状況も乗り越える力となりました。皆様

の支えがあったからこそ、私は職務を全うすることができました。奄美和光園での4年間は、私の人生にとって大きな財産です。この経験を胸に、新しい場所でも精一杯努めてまいります。

皆様の今後のご健勝と、奄美和光園の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

診療放射線技師長 高島 憲章

離任にあたって

この度、熊本の菊池恵楓園へ異動となりました、不自由者棟看護師長の坂口です。

自然が大好きな私にとって4年前に奄美への転勤が決まったときはわくわくした気持ちになったと同時に、少なからず不安も感じていました。そんな私を皆さんは暖かく迎えていただき、ほっとしたのを覚えています。4年という期間の中で皆さんとたくさんふれあい、声をかけていただき支えていただくことで楽しく仕事をするこ

ができました。

皆さんとの思い出は、私のこれからの人生においてかけがえのないものになりました。新しい地でも精一杯頑張りますので、ここ奄美の地から見守っていただければと思います。4年間ありがとうございました。

不自由者棟 看護師長 坂口 一彦

お世話になりました

入所者および職員の皆様、4年間お世話になりました。赴任当初は、初めての離島での生活となり、不安な気持ちでしたが、今では本当の地元のような感覚にいつの間にかなっておりました。和光園では、病棟から一般宿舎への退院支援を職員一丸となって取り組んだり、季節行事や作品作りを楽しんだり、挙げればきりがありませんが、一つ一つが大切な思い出となっております。

3月いっぱいまで和光園の職員ではなくなってしまうのですが、和光園で学んだことを活かし、新天地で励んで参りたいと思います。そしてまた、奄美を訪れ皆様に会いに来たいと思います。その時はお互い、元気な姿で再会できることを楽しみにしております。誠にありがとうございました。

作業療法士 湯脇 寛真

お世話になりました

数十年ぶりの故郷での生活、はじめの数ヶ月は昔の記憶を辿りながら環境の変化に慣れるのに精一杯でした。ご縁があり和光園で勤めさせて頂くことになりまず和光トンネル、有屋町、和光町の把握からはじめた事を懐かしく感じます。

私が和光園内で驚いた事はとても広く、自然豊かなことでした。奄美特有の生物や植物が身近に観察でき園児との散歩は、自分自身の楽しみでもありました。

またAEDの使用方法、心肺蘇生法、感染症対策等を園内研修として毎年受講でき

る環境がありがたく存じました。

日々恵まれた環境の中で入所者の皆さんや職員の方々に行事、散歩等でお声をかけて頂き沢山の方々に見守られている安心感がありがたく感謝の気持ちでいっぱいです。

お世話になりました。皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

保育士 福 美香

お世話になりました

昭和62年4月1日に入職しました。

和光園では、洗濯場において平成25年まで、看護課で令和7年までお世話になりました。微力ながら皆様の、お力になれたかと思えます。無事退職を迎えられるのも、入所者の皆様、先輩職員と同僚の温かい励ましのお陰だと感謝申し上げます。

最後に、入所者の皆様におかれましては、人生100年時代、これからもお体に気をつけて療養されてください。今まで本当に有難うございました。

介護員 若師 和之

お世話になりました

令和5年9月より1年半、福祉室福祉係として和光園の歴史資料の整理を担当させていただきました。開所からこれまでの入所者・職員の皆様の苦勞と喜びを、文書や写真を通して感じ貴重な学びの時間を戴いたことに感謝申し上げます。

自治会前で私が手に持っていた整理中の昔の写真を見て、「昔はここに何があって楽しくみんなでお茶を飲んだ」「〇〇ちゃんと遊んだ」とお話しいただいた入所者の皆さんの笑顔が今も忘れられません。未永く笑顔でお過ごしください。

私事ではありますが、4月より大和村にオープンします「アマミノクロウサギ飼育

展示施設 QuruGuru (くるぐる)」にて環境教育等を担当することとなります。カフェ・物販コーナーもありますので是非遊びに足をお運び頂けたら幸いです。笑顔でお待ちしております！

最期になりましたが、入所者の皆様、職員・福祉室のお世話になった皆様、短い間ではございましたがとても豊かな仕事をさせていただいたことに感謝しつつ、皆様の御健勝をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

福祉室 福祉係 立山 芳輝

お世話になりました

令和6年8月1日に就業して8か月の短い期間でしたが、楽しく仕事をさせていただきました。医事業務は初めての経験でしたが、栄さん、大野さんから親切丁寧な指導・助言を受け、なんとか仕事をこなすことができました。ありがとうございました。

和光園やハンセン病については一応の知識を持ち合わせている気持ちでいしましたが、この仕事に就くことで今まで知らな

かったことがたくさんあることに気づかされました。これからも入所者の方々が安らかな日々を過ごすことができ、職員皆様方の努力が報われることを信じてお別れの言葉とさせていただきます。

さようなら。

事務助手 赤塚 浜夫

新人紹介

総看護師長 田中 陽子 (たなか ようこ)



4月1日付で大分医療センターより昇任で参りました田中陽子と申します。出身は、福岡県宗像市で、世界文化遺産に登録された神宿る島沖ノ島があるところです。奄美大島は世界自然遺産に登録されているということで、とても楽しみに参りました。実際に、奄美ブルーの海だけでなく、緑あふれる山や鳥のさえずりなど自然の豊かさに触れ、奄美大島での生活がさらに楽しみになりました。

また、国立ハンセン病療養所での勤務は初めてとなります。その歴史を知り、入所者を知り、職員を知り、早く和光園のチームの一員となれるよう努力していきたいと思ひます。そして、看護理念の「その人らしさを大切に」をいつも心にとめて、入所者に寄り添った看護、介護に貢献していきたいと思ひますのでどうぞよろしくお願ひいたします。



事務長補佐 白倉 克彦 (しらくら かつひこ)

この度、奄美和光園の事務長補佐として赴任して参りました「白倉」と申します。和光園には8年ぶりの勤務となります。建物配置が一部更新されていましたが、職員は知っている顔ぶれも多く何か懐かしさを感じました。業務については、知らない事が多く悪戦苦闘の毎日ですが、上席をはじめ職員の皆様にご指導・ご協力を頂きながら前へ進んでおります。少しでも早く業務を軌道に乗せ、和光

園の一員として戦力になれるよう頑張っ参りますので、これからもご指導の程よろしくお願ひ致します。

会計班長 堀口 広文 (ほりぐち ひろふみ)



会計班長で参りました 堀口と申します。「マタアイマショウ」平成30年4月の異動でこの園を去るときの言葉です。(広報誌にも掲載。R1.5.1 113号) ここに戻ってきたい、とは言え現実的には本当に社交辞令の感覚でした。

しかし、6年の時を経て、冒頭の言葉が真実となりました。定年延長制度により叶ったのもあり「縁」を実感しています。6年前とはかなり体力が落ちて「老いるショック」ばかりのこの頃。前回よりパワーダウンしていますが、皆様のご理解、なによりご協力(援護)をお願いします。

新任者の挨拶回りでも、行く先々で知った顔が……。大変感激しました。

それでは皆様・・・「ただいま！」

**医事係長 福田 哲太 (ふくだ てった)**

4月1日付で、沖縄県にある琉球病院より赴任してまいりました、医事係長の福田哲太と申します。出身は、鹿児島市の方ですが、母親が奄美大島の出身で小さい頃は何度も遊びに来たことがあります。また、妻も奄美大島の出身で、娘も去年の6月に大島病院で生まれたばかりで、島との縁を強く感じているところです。勤務地としては初めてですが、島の生活には慣れているので、自然豊かな環境を楽しみながら、仕事と家庭をうまく両立して、励んでいこうと思っています。奄美和光園の一員として、はやく貢献できるように精一杯がんばりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

診療放射線技師長 大浦 美樹 (おおうら みき)

4月1日付で、星塚敬愛園より赴任してまいりました。奄美大島は初めてで自然豊かな土地である聞き、大変楽しみにしております。スロースターターで慣れるまでに時間がかかると思いますが、少しでも早く奄美和光園の一員として貢献していけるよう努力して参ります。長い目で温かく見守っていただき、色々教えていただけますと幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

**作業療法士 松下 智宏 (まつした ともひろ)**

出身は鹿児島で鹿児島経済大学卒後リハビリ学校を出た遠回り組です。その後は鹿児島県の子供・認知介護系の民間病院、独法の琉球病院での医療観察法、鹿児島医療センターでの脳卒中リハを経て現在となります。多職種で協力しながら、対象者の自信・意欲向上、自己肯定感向上、活動の幅を広げる事ができればと思います。趣味は登山、コーヒー、歩く等ですが浅く広くです。奄美は高3夏休みにダイビング免許を取りに一度訪れて以来30年ぶりです。ハンセン病に関する事は、TVで目にする事も多いですが、色々な方から教えて頂きたいと思っています。強みは色々な事に取り組もうとする意欲はあります。ご迷惑をおかけする事もあると思いますが、よろしくお願い致します。

看護師長 春田 絵里 (はるた えり)

4月1日に熊本再春医療センターより不自由者棟師長として赴任した春田絵里と申します。熊本出身で奄美大島に来るのも初めてですが、自然豊かな奄美大島を楽しみたいと思っています。

まだ、入所者の方とゆっくりと接することはできていませんが「その人らしさを大切に」皆様が安心して過ごせるように看護師と介護員と一緒に生活を支えていきたいと思っています。まだまだ慣れないことも多く、ご迷惑をおかけすると思いますがよろしくお願い致します。



花見会 ～ドキドキ・ハラハラ・ワクワクのひととき～

奄美大島では、1月下旬から2月上旬にかけて、緋寒桜の見ごろを迎えるので、当園では、その時期に合わせて、毎年お花見会を開催しています。今年は、令和7年2月13日(木)、奄美和光園あすなろホールにて、令和6年度お花見会が開催されました。今回は、元職員の方に開催のご案内をしたところ、3名の方にご参加いただきました。入所者の皆さんには内緒で段取りしていたので、久しぶりの再会に驚き、大変喜ばれていました。

さて、馬場園長の挨拶でスタートしたお花見会。メインイベントは「余興」なので、すぐに余興大会(カラオケ大会)となるのですが、今年は、ここで機材トラブルが発生して、カラオケの音が出ないという状態になってしまいました。音響担当の職員が復旧作業にかけまわる中、その場をうまく和ませていただいたのは、職員OBの皆様です。お一人ずつ、挨拶をしていただき、和光園での思い出などを語っていただきました。

OBの皆様の挨拶がおわるころ、なんと

か機材も復旧して、怒涛のカラオケタイムがスタートです。会場の雰囲気は十分にあたたまっておりましたが、演目が進むにつれて、会場はさらにヒートアップしておりました。そして、盛り上がりが高潮になったところで、「総踊り」と「六調」で、全員で楽しみました。

お花見会は、加納特命副園長のご挨拶で、締めていただいたあと、全員で記念撮影をしました。その写真を見てみると、皆さん笑顔で、楽しい時間を過ごされたのだろうと感じました。

今回は、天候が不安定だったため、室内での開催となりましたが、入所者の皆様も大変喜ばれていました。また、来年も、皆さん元気で、今年以上に楽しいお花見会ができることを願っています。

皆様お疲れさまでした。ありがっさまありょうた。

福祉室 医療社会事業専門員 保 裕之



会 場



久々のOBとの再会に喜ぶ



開会前のゆらい



開会前を楽しみに、そわそわ



園長挨拶



カラオケ大会スタート



カラオケ



OBのご挨拶



あまみ保育園のかわいいお遊戯



六 週



閉会の挨拶



記念撮影



令和6年度

県内巡り



令和6年度の県内巡りは令和7年3月4日・5日、2日間の日程で川薩地方の出水鶴センター、長島町の市場を見学してきました。参加される入所者の皆さんは準備の段階から「今度はどこに行くのかな?」「楽しみね」と1泊2日の旅行を心待ちにしていました。

出発当日はあいにくの雨模様で乱気流により飛行機はジェットコースターのように大揺れでしたが、無事に鹿児島空港に着くと「ホッ」と胸をなでおろし皆さん笑顔が見られていました。鹿児島空港で恵楓園・敬愛園の皆さんと合流し、それぞれマイクロバスに乗り、最初に出水鶴センターで鶴の見学をしました。初めて見る鶴に「あっちにいる」「あれは家族ね」と指を差しながら声が飛び交っていました。夕方にはホテル泉國邸に着き、18時から交流会に参加しました。今年も感染対策で余興はありませんでしたが、去年に続き奄美和光園のメンバーで「島のブルース」を披露しました。最初は私たちの踊りを見ていた恵楓園・敬愛園の入所者の皆さんも次々と前に

出てきて最後はみんなと一緒に「島のブルース」を踊りました。「楽しかった」「奄美は良いね」と皆さんの笑い声と笑顔が「和」となり、とても楽しい交流会でした。

2日目はホテルを後に長島町の風景を見ながら観光し、その後、川内市場でカゴを手に、思い思いにお土産を買っていました。昼食後に恵楓園の皆さん、鹿児島空港では敬愛園の皆さんとお別れしました。別れる時はお互い手を振り「また来年も会おうね」「ありがとう」とバスの中から声を出して別れを惜しんでいました。

令和6年度の県内巡りに楽しく参加できたのも鹿児島県の職員、旅行会社の職員をはじめ、施設の皆さん達のご協力・ご配慮あっての事と感謝申し上げます。2日間という短い時間でしたが、来年も入所者の皆さんの楽しい思い出ができるように私たち職員一同サポートしていきたいと思います。

看護課 不自由者棟 介護員 朝野 寿枝



まほろば大和ウォーキング大会

令和7年1月26日 第21回まほろば大和ウォーキング大会が、大和村にある“奄美フォレストポリス”という自然公園で開催され参加しました。

私は、令和6年4月に奄美大島に参加しましたが、ここで様々なイベントに参加させていただき、前の職場では体験できなかった貴重な体験をしています。今回は、約6kmの桜並木散策コースを選びました。奄美大島で1月に桜が見られることにとっても驚き、是非桜を見てみたいと楽しみにしていました。しかし、日頃の運動不足を自覚していること、正月にごちそうをたくさん食べたことで、「果たして約6kmの距離を歩けるのか？」という不安がありました。

当日を迎えて、応募者数1,077名で約1,000名が参加しているのに驚きました。天気が良く、心地よい風も吹いてウォーキング日和でした。最初は平坦な道のりで、

「桜が咲いている。これは写真におさめなければ」と緋寒桜の写真を撮っていました。歩くにつれて、下り坂が続きました。下りきったところはキャンプ場となっており、そこを進むと桜が咲いていました。「この桜がここで一番咲いている桜です」と誘導の方に教えて頂き、少し道を外れて写真を撮りました。帰りの登り坂は奄美大島独特の木々を見たり、空の青さを見上げたりしながら歩いていると、いつの間にかゴールにたどり着いていました。

このように、桜や奄美の木々と青空を見ながら6km歩いた達成感とウォーキング後の豚汁とおにぎりでお腹を満たし、充実した1日を過ごしました。

治療棟 看護師長 星野 睦美





消防訓練 (夜間想定)



令和7年2月27日、給食棟から出火するのを準夜勤の看護師が発見する想定で、消防訓練を実施しました。夜間想定のため、当園敷地内の宿舎居住者が、消火隊・避難誘導隊・救護隊に分かれ、自分の宿舎から駆けつける形で行いました。

園内の緊急放送を確認した宿舎居住者が順次、現場に到着し複数人で協力して屋内消火栓を用いて模擬消火を行いました。普段なかなか使用しないものなので、こういう訓練の時に使い方を確認できる機会を持

つことが、とても重要だと感じました。また、模擬入所者さんの避難誘導も手際よく進めることができました。

入所者の皆さんが安心・安全に過ごせるように、これからも定期的に訓練を実施していきますので、多くの職員が参加して、いざという時に落ち着いて行動できるように引き続き、ご協力をお願いします。

庶務班長 毛利 安則



令和6年度 医療安全実践報告会を開催して

令和7年2月26日に医療安全実践報告会が開催され、各部署から安全対策の取り組みが発表されました。

庶務課は、災害対策BCPワーキング策定の進捗状況と自然災害増加に伴う医療機関のBCPの重要性を報告しました。薬剤科は、薬剤取り間違い防止策として、ヒューマンエラー防止のためのフルプルーフやフェイルセーフを紹介しました。医事課は、FAX誤送信防止対策として、ダブルチェックや宛先確認の徹底を強調しました。

検査科は、他部門連携によるインシデン

ト事例の解決事例を発表し、多職種連携の重要性を再認識しました。不自由者棟は、入所者のQOL向上を目指した転倒・誤嚥防止対策を紹介しました。

各部署の発表後、質疑応答では改善策や他部署の取り組みについて活発な意見交換が行われました。報告会を通じ、医療安全への認識が深まり、職場全体の協力の重要性を再認識しました。

医療安全推進担当者委員

放射線科 高島 憲章



令和6年度医療安全実践報告会			
10:00～10:05 開会挨拶 (園長)			
10:05～10:50 実践報告発表 (発表5分、質疑応答・講評5分)			
テ	マ	発表	講評
1	災害対策BCP策定について	庶務	会計課
2	配薬間違い防止対策	薬剤科	栄養科
3	FAX誤送信事故を防ぐ	医事課	看護課
4	他部門とのコミュニケーションにより原因追及し問題解決した一例	検査科	医局
5	入所者の安全・安心な生活環境を目指して	不自由者棟	リハビリ
10:50～10:55 総評 (副園長)			
10:55～11:00 閉会			



看護研究発表会

令和7年2月27日(木)午前中1時間の日程で20名の参加者を前に、口演による看護研究発表会を開催しました。今年度も講師の永田美和子先生のご指導により、研究論文完成、発表の場へと導いていただきました。

病棟は、高齢入所者に対する自己効力感を高める看護援助をテーマに研究に取り組み、5つの看護援助を導き出すことができました。入所者の自己効力感を高める看護援助には、信頼関係の構築と統一した関わりや、スタッフ全員で連携した支援が重要であることを再認識できました。

不自由者棟は、看護師と多職種が連携する上で大切にしているアプローチポイントをテーマに研究に取り組み、看護職と多職種がチームとしてより良い連携を図るために重要であるアプローチポイントを導き出すことができました。

看護師長研究会では、ジェネラリスト研

修における教育内容と研修生の反応について実践報告され、研修生が主体的に研修に取り組み、目標達成に向かってやる気を維持するための今後の課題を明らかにすることができました。

各研究生とも日頃の疑問を追求し研究に取り組み、指導や助言を基に推敲を重ね研究論文にまとめることができました。また、結果を効果的にスライドで表現し発表されており、研究生の努力の成果を感じました。今後、研究で得られた結果を、日々の看護実践や現場の教育に活用し、入所者のみなさんにとって最善のケアをチームで提供できるように努めていきたいと思えます。

ご協力いただいた全ての皆さまに、心より感謝申し上げます。

不自由者棟 看護師 佐々木 和美



フットケアセミナーに行ってきました

去る2月1日、アマホームPLAZAで開催されました「実用のためのフットケアセミナー」に行ってきました。病棟で久永看護師さんに「今度フットケアセミナーでABI担当になっているので見せてください！」と言われ、そんなのがあるなら自分も参加してみたいと思い、興味本位で参加申し込みをしました。ちなみにABIというのは日本語で“足関節上腕血圧比”と言い、腕と足の血圧の違いにより主に下肢動脈の狭窄や閉塞の程度を評価するために用いられる検査です。当施設では血液の流れの指標になる検査機器としてABI、SPP（皮膚還流圧測定）等の測定装置がありますが、あまり臨床に活用されていないので何かの役に立てばとの思いからでした。実際の公演は午前中が一般の方向けに爪切りについての講演と実技があり、私はこちらには参加しませんでした。午後

の「看護師のためのエコー基礎体験」に検査技師なのですが参加させていただきました。快く受け入れていただき、ありがたく思いました。

題にありますエコー基礎体験では実際に下肢動脈の描出を体験させていただきましたが、あまりうまく描出できませんでした。講師の方からは「初めてで描出出来たら運がいい」くらいの感じと慰められながら。ほかにもマイクを使って血流の音（独特なシューン、シューンといった感じの音）を聞きながら血圧を測定し、どのくらいの血圧で血液が流れだすのか（どのくらい圧力をかけたら血流が阻害されるのか）を計測しました。また、ABI測定も行い、これらの検査の関連についても学びました。

だんだんと年を取りますと足が冷えたり、むくんだり、しびれたり、真菌感染（要するに水虫）、時には傷ができて治りにくかったりすることが出てきます。血流が悪くなっていることも考えられます。今回の体験が入所者のみなさまのために役立てばと思いつつ、帰路につきました。

検査技師長 安藤 陽一郎



基礎が出来れば応用ができる

実用のための

フットケア
セミナー

参加費
各¥2,000

セミナー内容

第一部 爪切り 講義・実技

- ☑ 爪の基礎講義
フットケア同好会 中田 智和
- ☑ 爪の基礎実技
 - ・ ニッパー等物品説明
 - ・ 相モデル爪切り実技
 - ・ トラブル爪講義
 フットケア同好会 野崎美香

第三部 看護師のためのエコー基礎体験

- ☑ 携帯エコーを触ってみよう！
足背動脈・後脛骨動脈・膝窩動脈をエコーでみてみよう！
ABI体験 / ドブラ体験
住用診療所 野崎 義弘先生
検査結果のみかた
鹿児島市立病院循環器医長宮内栄治先生

開催場所

アマホームPLAZA 3階 中多目的室

定員

先着 20名 締切：1/25(土)
(定員決まり次第終了)

日時

2/1(土) 第一部 9:20-11:30
第三部 14:30-16:30

両部参加の場合
¥3,500になります



日本フットケア・足病医学会九州・沖縄地方会学術集会に参加して

2月10日は『フットケアの日』であり、毎年各地で学会が開催されています。私達3名は、鹿児島で開催された「第6回日本フットケア・足病医学会九州・沖縄地方会学術集会 フットケア維新～足を巡る連携の夜明け～」に参加してきました。初めて学会へ参加するメンバーもいましたが、訪問看護や外来での活動など様々な分野からの発表や活発な質疑応答を聴講することができ、学びを深めることができました。発表の中には、馬場園長による和光園皮膚科外来の症例発表もあり、症例を思い起こしながら看護師に必要な観察点を学ぶことができました。また、フットケアの専門家による様々な講演を聴講することができ、中には初めて耳にする治療法や検査法についての説明もあり、最新情報を学ぶことができました。

今回の学会参加を通して、フットケアとは足を見るだけではなく患者の生活スタイルや体調の変化にも注意しなければならないこと、私達が患者一人ひとりとのコミュニケーションを通して必要な情報収集を行

わなければ、治療に必要な情報が得られない危険性があることを改めて学習することができました。また、その背景には様々な専門医や職種が関わり、チームとして連携する事の重要性を実感しました。これから、和光園フットケアチームとして、スタッフへ知識や技術の伝達を行いながら入所者や皮膚科外来の患者へのケアへ活かしていきたいと思います。

治療棟 副看護師長 松元 くるみ
 病棟 看護師 久永 美紀
 不自由者棟 看護師 鶴村 あさみ



とろみのひと工夫 ～安全にそしておいしく～

食事やおやつの時間、「温かいお茶を飲むとホッとするな」「味噌汁の味に心が和むな」と思う瞬間は、生活の中の小さな幸せのひとつです。そのひと時を、むせることなく安全に、無理せず、そしておいしく味わって頂くための工夫として欠かせないのが、「とろみ剤」です。今回はその、とろみ剤についてのお話を少しだけお届けしたいと思います。

飲み物を飲んだ時にむせてしまう経験はありませんか？年齢を重ねたり、病気や体調の変化によって、飲み物を飲んだ時にむせやすくなる場合があります。むせることで、誤って飲み物や食べ物が肺に入ってしまう誤嚥（ごえん）が起きると、命に関わる病気になることもあります。そこで活躍するのが、「とろみ剤」です。飲み物にとろみをつけて、ゆっくりと喉を通ることで飲み込むタイミングが取りやすくなります。

しかし、とろみ剤はただ入れるだけでは安全とは言えません。飲み物の種類や温度、とろみ剤の量によって、仕上がりのとろみ加減が大きく変わります。特にとろみがつきにくい飲み物には要注意です。

例えば、牛乳、乳酸菌飲料、果汁飲料、味噌汁、栄養補助食品は、水とは違ってとろみ剤が溶けにくい、時間が経つと粘度が変わりやすいといった特徴があります。さらに、温かい飲み物は時間が経つとともに粘度がどんどん強くなります。そのため、同じ飲み物であっても、作る人によって濃さがまちまちになることがあります。この「とろみ濃度のばらつき」は、私たち看護現場の悩みのひとつです。

とろみが薄いとむせるリスクが高くなり、濃すぎると飲み込みづらくなり、喉に残って危険になることもあります。さら

に、「味が変わっておいしくない」と、食事の楽しみが減ってしまう原因にもなります。

とろみの濃さは基本となる3段階があり、いずれかの程度のとろみを使用することが推奨されています。

- ①薄いとろみ（スプーンを傾けるとスッと流れる）
- ②中間のとろみ（スプーンを傾けるとトロトロと流れる）
- ③濃いとろみ（スプーンを傾けても、形状がある程度保たれ流れにくい）

とろみの濃さは、飲み込む人の力を医師や看護師・言語聴覚士が判断して決めます。安全のために適切なとろみが必要です。そして、適切なとろみに調整するためのポイントは4つです。

- ①計量スプーンや計量カップを使用して、丁寧に計量する
- ②提供する直前にしっかりと混ぜて、とろみ具合を確認する
- ③時間が経った場合は再確認し、必要時には再調整する
- ④飲み物の種類毎の適量を確認する

これらのことに注意して、看護職員一同しっかりと丁寧に、とろみの工夫を続けていきます。おいしい食事は暮らしの楽しみです。安全に、そして「おいしい」と感じていただける時間をこれからも大切にしていきます。とろみの工夫が入所者みなさんの毎日を支える小さな力になりますように。

摂食嚥下障害看護認定看護師 重原 恵美

メディカルアロマセラピー始めました

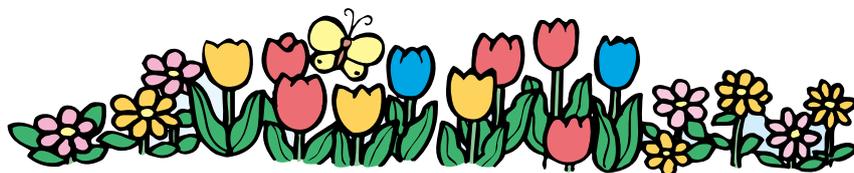
みなさんは「補完代替療法」という単語を聞いたことはありますか？西洋医学ほど科学的根拠が得られていないため「効果のある治療」とは表現できないものの、西洋医学では十分な効果が得られていない場合に「補完」的に用いられる治療です。ときには西洋医学以上の効果があり、「代替」療法になることもあります。漢方薬をはじめ、健康食品、温泉療法、音楽療法、心理療法、アニマルセラピーなど多岐にわたり、アロマセラピーもその1つです。近年は補完代替療法の効果が科学的に証明されつつあり、医療機関でアロマセラピーを行う場合、メディカルアロマセラピーと表現されます。

この数年、入所者の方々が、加齢とともに内服薬が多くなってしまったり、嚥下機能の低下により内服が難しくなったりするなかで、何か他の手段はないかと模索しておりました。また看取りの場においてアロマセラピーを導入したいと考えていました。そんな中、日本アロマセラピー学会の存在を知り、WEBにて講習会と試験を受け、「基礎認定医師」の資格を取得しました。入所者の方々が、香りによって元気になったり、リラックスできたり、という一般的なアロマセラピーの効果に加えて、関節痛の緩和や拘縮の軽減、終末期において入所者だけでなく家族の方々の心のケアな

ど、幅広く活用できたらと考えております。

この場をお借りして、メディカルアロマセラピーの導入にバックアップいただいた幹部職員や倫理委員会メンバー、精油の購入に際して諸手続きをしてくださった会計職員、日々の治療に協力してくださっている看護課や薬剤科に感謝いたします。

園長 馬場 まゆみ



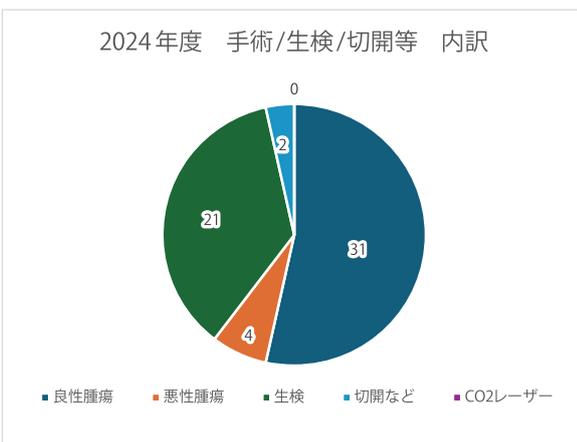
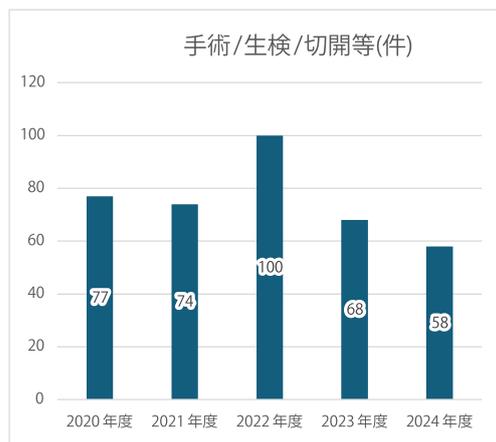
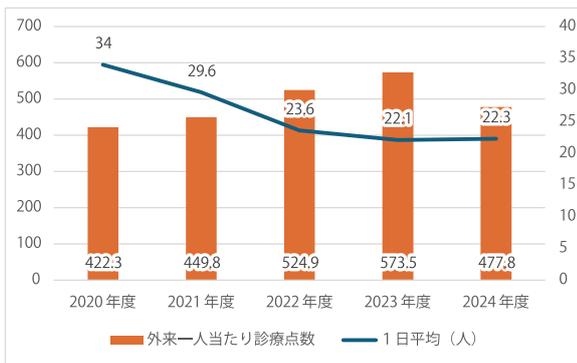
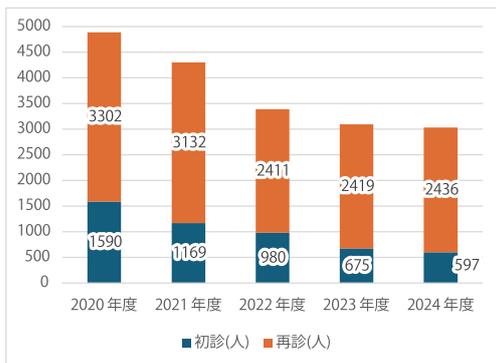
令和6年度 診療統計

	外来診療					再掲			入院診療	分子標的薬	
	初診(人)	再診(人)	合計(人)	1日平均(人)	診療実日数(日)	紫外線療法(件)	手術/生検/切開等(件)	フットケア(件)	延患者数(人)	導入	維持療法(累計)
4月	51	229	280	21.5	13	54	6	6		1	1
5月	48	177	225	20.5	11	42	4	9			1
6月	52	199	251	20.9	12	48	3	7		2	2
7月	52	234	286	22.0	13	50	0	12		4	
8月	48	198	246	20.5	12	44	4	8			4
9月	45	192	237	21.5	11	67	2	7		1	1
10月	43	208	251	22.8	11	40	8	11			
11月	47	207	254	23.1	11	47	3	8	22	1	2
12月	51	220	271	22.6	12	50	5	12			1
1月	56	192	248	24.8	10	44	9	6		2	3
2月	46	188	234	26.0	9	37	9	12			2
3月	57	193	250	22.7	11	42	5	7	6	2	1
合計	596	2437	3033	22.3	136	565	58	105	28	13	18

分子標的薬治療 累計 31名 (実人数 導入 13名、維持療法 4名)

入院加療を必要とする重症患者はなく、皮膚悪性リンパ腫の紫外線療法 1名、アトピー教育入院 1名があった。

予約したものの未受診の患者が毎日数名あり、患者数は例年より減少した。



学会発表

第78回国立病院総合医学会 (10月18日～19日・大阪市 現地開催)

静脈瘤症候群に続発した原発性皮膚びまん性大細胞型B細胞リンパ腫・下肢型の1例

第6回日本フットケア・足病医学会 九州・沖縄地方学会術集会 (2月8日～9日・鹿児島市 現地開催)

血行障害を伴わないことで切断を免れている糖尿病足病変の1例

論文

西日本皮膚科 第86巻5号

右腋窩に有痛性皮下膿瘍を生じた Mycobacterium fortuitum 感染症

美容皮膚医学 BEAUTY 第8巻1号

奄美大島における植物性接触皮膚炎について

人事異動

(令和7年2月1日～令和7年4月30日)

R 7. 3. 31	加納 達雄 中嶋 洋子 岩橋 竜一 若師 和之 福 美香 赤塚 浜夫 立山 芳輝 高島 憲章 湯脇 寛真 坂口 一彦	特命副園長 総看護師長 事務長補佐 看護助手 保育士 事務助手 事務助手 診療放射線技師長 作業療法士 看護師長	任期満了 定年退職 定年退職 任期満了(再任用フルタイム勤務) 退職(期間業務職員) 退職(期間業務職員) 退職(非常勤職員) 星塚敬愛園へ 南九州病院へ 菊池恵楓園へ
R 7. 4. 1	田中 陽子 白倉 克彦 堀口 広文 福田 哲太 大浦 美樹 松下 智宏 春田 絵里	総看護師長 事務長補佐 会計班長 医事係長 診療放射線技師長 作業療法士 看護師長	大分医療センターより 宮古南静園より 菊池恵楓園より 琉球病院より 星塚敬愛園より 鹿児島医療センターより 熊本再春医療センターより
R 7. 4. 15	安田 さとみ	保育士	採用

和光園日誌

(令和7年2月1日～令和7年4月30日)

R 7. 2. 4	節分豆まき
2. 8	ライフサポートシンポジウム
2. 13	お花見会
2. 26	医療安全実践報告会 第30回アニマルセラピー
2. 27	看護研究発表会 消防訓練(夜間想定)
3. 4～5	県内めぐり
3. 13	離任式
3. 27	第31回アニマルセラピー
3. 31	辞令交付式
4. 1	辞令交付式
4. 3	新任者オリエンテーション
4. 10	着任式
4. 17	法務局来園(鹿児島地方法務局長)
4. 24	第32回アニマルセラピー

編集後記

寒さもようやく和らぎ、春の兆しを感じられるようになりましたが、いかがお過ごしでしょうか。今年の冬は、例年と比べて寒い日が長く続いたように感じます。季節の変わり目は寒暖差に十分気をつけましょう。

さて、新年度を迎え、奄美和光園でも旅立ちや出会いがありました。私も新たに、4月より赴任してきて、さっそく編集委員として“和光誌”に携わることになりました。皆さまに楽しいお知らせができますよう、精一杯努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。皆さまのお手元に届く頃には、初夏を迎えている頃かと思えます。体調にはくれぐれも気をつけて、共に暑い夏を乗り切りましょう。

編集委員 福田 哲太